

三セク債の調達借入先と方法は

新風会 岡田康弘



質問 ↓ 三セク債の調達先と調達方法は。
答弁 ↓ 発行金額113億5000万円全額を9月5日に入札し、借入先は広島銀行50億円、津山信用金庫29億563

0万円、中国銀行10億円、JTAつやま8億9370万円、鳥取銀行7億円、トマト銀行5億円、山陰合同銀行3億円と、すべて市内の金融機関に決定した。5年ごとの利率見直し方式で借り入れる75億円は、5年ものの国債金利に上乘せまたは引き下げする金利を比較するスプレッド方式で入札し、落札平均スプレッドが0・069%。最終的には9月11日公表の国債金利により決定する。15年間の固定金利方式で借り入れる38億5000万円は、借入利率が平均1・062%。長期財政見通しで想定していた金利2%に比較して低利での借入を行うことができた。

生きる力と教育・人づくりの重要性

緑風会 竹内靖人



質問 ↓ 市長の教育に対する考え方は。
市長 ↓ 教育は地域づくり、まちづくりの礎だと考えており、教育の充実には特に力を入れてきたと思っている。今後

だが可能な限り予算の配分を行い、教育力の向上に向け取り組むたい。
質問 ↓ 学力向上のみに走りすぎず、人づくりに取り組まなくてはならない。教える側、教えられる側、それぞれにどのような課題があるか。
教育長 ↓ 学校教育は、教員と児童・生徒との間に「教え・教えられ」の関係が必要。教員は、自信と情熱を持ち教育を行うべく自ら指導力や人間的な魅力を高める必要がある。子ども達には社会への関心や自ら学ぶ意欲が必要。家族や地域の人々も社会のルールを身をもって教え、子ども達の良さを認め勇気づけることが大切。

また付け回された113億円30年ローン

★市民と歩む会 河本英敏



質問 ↓ 津山市内各地域に語り継がれている昔話などをまとめたものはあるのか。ないとすればまとめる考えはあるのか。

答弁 ↓ 昔話・民話などを含め、今年度発足した「津山市史編纂委員会」の民俗部会の中でまとめた。
質問 ↓ 土地開発公社の解散に伴う113億円の30年分割払いの責任は、時の市長、議会に問題があったと考えるのが普通。しかし、さかのぼってという事にもならない。現市長、議会は、機関責任を自覚すべきと考えるがどうか。
答弁 ↓ 当時の関係者の道義的責任は重いと考える。しかし、民主制の過程の中で問題の抜本的な解決を図るべきであると認識している。

災害に対する安全安心のまちづくりはどうか

緑風会 木下健二



質問 ↓ 8月5日の局地的豪雨により津山市中心街に大きな被害が生じた。安全・安心のまちづくりを進めている中、市長の考えは。また、ハザードマップ

の見直しはどうか。
市長 ↓ 近年、地球温暖化などによる異常気象により全国各地で想定外とされる災害が発生しており、津山市においても油断できない状況にある。自治体は市民の生命身体財産を守る責務があるが、完全なる防災の術はないと痛感している。今後ともあらゆる災害に対し、市民、地域や関係機関と連携し、被害を最小限に抑える防災・減災に向けての取り組みを精一杯行っていきたい。
総務部長 ↓ 新しい防災ハザードマップは今年3月、市内の危険箇所調査結果を新たに加え、作成した。